

国立大学法人熊本大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

熊本大学は、広く海外の諸大学等との人的・文化的交流を通じて、「人の命、人と自然、人と社会」に関する活発な研究活動を推進し、教育・研究活動の成果を活用して、広く地域及び国際社会に貢献することを目的としている。第2期中期目標期間においては、学士課程教育において学習成果に基づいた教育プログラムを整備するとともに創造的知性と実践力に重点を置いたカリキュラムを充実すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、学士課程教育プログラムの検証、TOEIC IP テストの全学導入、学位プログラムごとのカリキュラムマップの作成等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 省エネルギー推進年間行動目標を設定し室温管理等の節電に努めるとともに、電力料金契約の改定等を実施した結果、対前年度比1,114万円削減している。
- 科学研究費助成事業において、専任教員以外の研究者に対する研究奨励のためのインセンティブ付与額の上限を10万円から50万円に見直すとともに、研究コーディネーターによる特定種目の相談窓口を試行的に設置するなどの取組により、採択件数は610件(対前年度比30件増)、採択額は19億682万円(対前年度比4,354万円増)、採択率は58.4%(対前年度比4.2ポイント増)となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全衛生管理、③法令遵守)

平成24年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 過年度において、職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教養教育においては、授業の実施状況や学習到達度、授業の満足度等を報告書にまとめ、平成25年度教育科目に反映させるとともに、専門教育においては、学位授与方針に即した科目編成となっているかの点検及び調査を行うため、学部学科の学位プロ

グラムごとのカリキュラムマップを作成して、学士課程教育プログラムの検証を行っている。

- 学生の英語運用能力の強化を図るため、平成 25 年度学部入学生から TOEIC IP テストを入学当初及び 2 年次末の 2 回実施し、従来のリベラルアーツとしての英語教育にとどまらない新たな英語教育を検討することとしている。
- 「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」(博士課程教育リーディングプログラム)において、9 名(留学生 2 名を含む)の学生を受け入れ、地域、アジア、世界で活躍するリーダーの育成を目指し、アジア諸国の研究機関、大学の海外オフィス、熊本県や熊本市などの地方行政機関及び民間企業と密接に連携した大学院教育を開始している。
- 学内の拠点形成研究として推進している「HIV 感染症に対する新たな治療・予防法の開発を目指す国際研究教育拠点」において、エイズ治療の新しい候補薬を開発し、動物実験で、薬剤耐性ウイルスの増殖を抑える効果が確認され、製薬会社に臨床試験の権利を供与している。
- 強度と耐熱性に優れた「KUMADAI マグネシウム合金」の実用化を推進するため、県、地元企業の研究会で構成する「実用化推進本部会議」を開催し、研究開発や技術相談、技術者育成等について検討するとともに、世界で最も燃えにくいマグネシウム合金(発火温度 1,105℃)の開発に成功している。
- 文化庁公募事業「くまもとの文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」において、五高記念館等の保存活用計画を策定し、化学実験場、工学部研究資料館の一般公開に向けた体制を整えている。
- 学部・附属学校連携事業である「論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発」の取り組み状況を、「新学習指導要領シンポジウム(第 3 弾)」において報告し、先進的な教育実践研究の成果を地域の学校等に還元するとともに、地域の学校が抱える教育課題に関する情報を収集している。
- 国立 6 大学(千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学)において、グローバル社会をリードする人材育成の推進と学術研究の高度化を目的とした包括連携協定を締結するとともに、ASEAN 大学連合(AUN)との交流促進等を目的とした「国立六大学国際連携機構」を設置し、共同学生交流プログラムの実施等の国際交流事業等に取り組むことを決定している。
- 海外の大学と新たに 16 の交流協定を締結し、協定校数は 147 校(第 2 期中期目標期間中目標 150 校)となるとともに、交流協定校に大学を紹介する「協定校セミナー」をインドネシアのスラバヤ工科大学(150 名参加)及びタイのコンケン大学(170 名参加)で開催するなど、大学間交流を促進している。

共同利用・共同研究拠点関係

- 発生医学研究所では、将来の医学・医療と新しいイノベーションの創出への貢献、若手研究者の能力向上のために、「将来の医療のために臓器を創る」というミッションを掲げて、「臓器再建研究センター」を新たに附置し、共同研究基盤及び支援体制を強化している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 臨床研究の推進に向け6つの診療科横断的な研究プロジェクトを企画し、その中で実現性が高く推進が見込まれるものには、平成25年度から病院長裁量で研究経費を配分することを決定している。

(診療面)

- 周産期医療の充実のため、新生児用救急車を導入するとともに、3D超音波画像診断装置を用いた周産期遠隔医療支援システムを整備し、画像等による詳細な診療情報を連携医療機関と共有する診療体制を構築している。

(運営面)

- 医師の診療業務環境を改善するため、CT造影剤注入時の立会いを医師から看護師が行うよう業務分担を見直したほか、薬剤師を6名増員して、休日の無菌調剤業務を全診療科対象に開始し、病棟薬剤・持参薬管理支援業務の対応を強化するなどの取組を行っている。